

# 平成28年熊本地震の発生地

- ・ 震度7の地震が28時間内に2回発生（観測史上初）
- ・ 県内20市町村で震度6弱以上を観測
- ・ 余震回数は4,100回超（H28. 12. 6時点）



## 前震

発生日: H28年4月14日(木)  
最大震度: 7  
マグニチュード: 6.5

## 本震

発生日: H28年4月16日(土)  
最大震度: 7  
マグニチュード: 7.3

建物被害約18万棟  
(全壊8,300棟以上)  
[12月6日時点]



# 熊本地震被害状況例

道路2,097カ所、河川636カ所、橋梁169カ所などで被害確認[12月12日時点]



道路陥没



道路破損

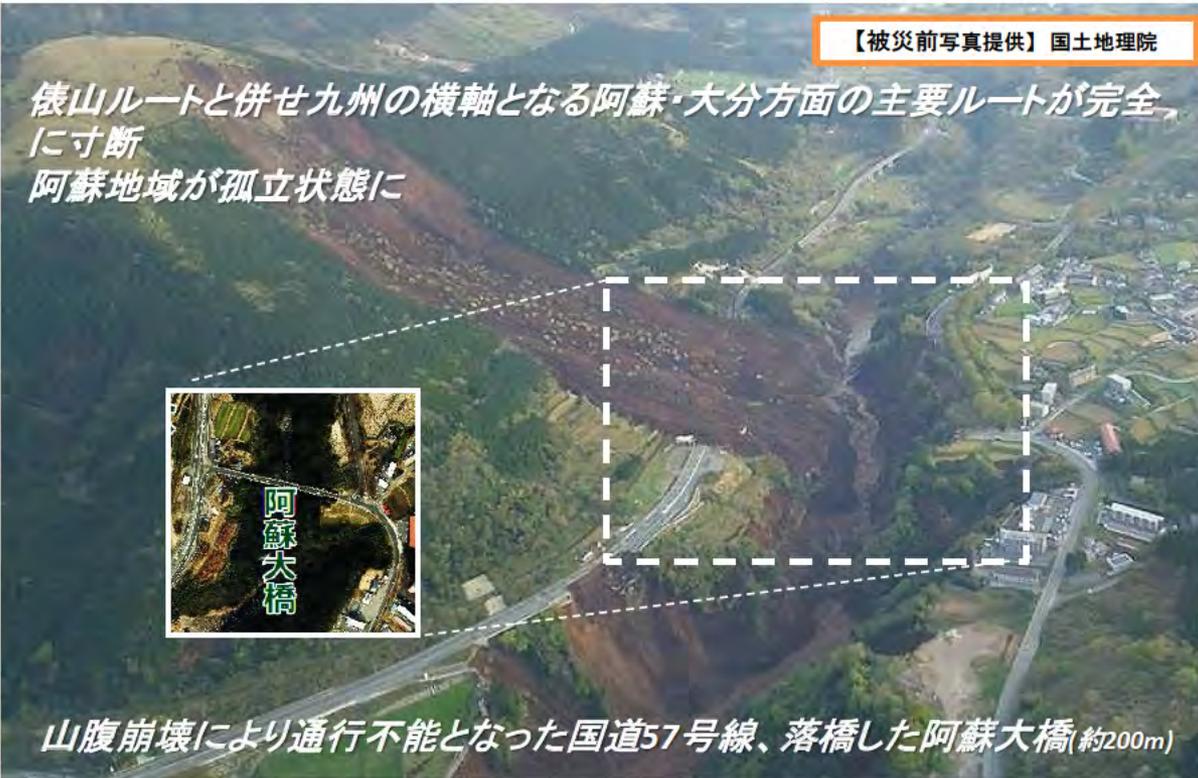
文化財被害例  
熊本城



県内の指定文化財等357件が被災  
(国98件、県59件、市町村200件)  
[12月12日時点]

【被災前写真提供】国土地理院

俵山ルートと併せ九州の横軸となる阿蘇・大分方面の主要ルートが完全に寸断  
阿蘇地域が孤立状態に



山腹崩壊により通行不能となった国道57号線、落橋した阿蘇大橋(約200m)

県内有数のアーケード街も被災



商業施設被害例  
健軍商店街

# 男女共同参画センターの主な取組



避難所

仮設住宅

避難所ポスター掲示（性被害防止）

男女共同参画視点からの避難所調査・優良事例及び改善案紹介(市町村へ通知)

熊日新聞「女性の悩み相談 熊本地震」連載

男女共同参画 inパレア ロビー展（6月）・ワークショップ（7・11・2月）

被災地訪問相談事業（8月～、6市町村）

DV防止講演会（11月）

# 避難所ポスター掲示 (性被害防止)

4月25日、市町村に避難所でのポスター掲示を依頼。  
4月26日～29日、避難所31カ所巡回、掲示を直接依頼

# 男女共同参画視点からの 避難所調査・優良事例等紹介

4月26日～29日、避難所31カ所巡回・調査。5月9日、  
市町村へ優良事例・改善案を通知

避難所に更衣室がないので  
更衣室をダンボールで作ったところから  
のぞかれた。その更衣室を使うときは  
見張りを立てるようにした。(13～16歳女子)

避難所で成人男性からキスしてと驚かれた。  
トイレまでついてくる。着替えをのぞかれる。  
母親を含めて誰にも知られたくない。  
加害者が避難所にいられてはほしい。(6～12歳女子)

男子が同じ避難所にいる男性に  
むいせつな行為をされた。  
ほかの男子数名も被害に遭った。  
家族が、避難所の宿舎だった役場職員  
に相談し(中略)、加害者には避難所  
から出てもらうことになったが、その間に  
加害者は避難所を出た。  
(6～12歳男子)

避難所で夜になると  
男の人が毛布に入ってくる。  
周りの女性も  
「寒いからかかないね」と  
見て見ぬふりをして助けてくれない  
(20代女性)

授乳しているのを男性に  
じっと見られる。  
監視に連絡したら  
巡回の回数が増やされた。  
その後、授乳スペースが設けられた。  
(30代女性)

**避難所・避難先では  
困っている女性や子どもを狙った  
性被害・性暴力、DVなどが増加します**

東日本大震災女性ネットワーク調査チーム 2015『東日本大震災「災害・復興における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書より』

自分を大切にしてください

単独行動はしない  
ようにしましょう!

性的な嫌がらせやいたずらなど  
尊厳を傷つける行為も犯罪です

被害をうけたら相談を!

周囲の目と支えがたよりです

見ないふり・知らないふりをせず  
助け合いましょう

ストレスをためず  
不安な気持ちも声  
に出しましょう



**相談機関** ※相談は無料です。秘密は守られます  
※受付時間は状況により変化する場合があります。ご了承ください

性暴力被害者のためのサポートセンターゆあさいどくまもと ☎096-386-5555

熊本県女性総合相談室 ☎096-355-2223

熊本県女性相談センター【DV相談】 ☎096-381-7110

熊本県警察本部レディース110番 ☎0120-8343-81 ☎096-384-1254

このチラシに関するお問い合わせ：熊本県男女共同参画センター(☎096-355-1187) 原案作成：熊本県女性総合相談センター(はあむむ)



# 熊日新聞連載 「女性の悩み相談・熊本地震」

5月25日～7月27日、水曜日毎10回掲載。女性総合相談室をはじめ他の相談窓口の連絡先も掲載し周知を図る

## 女性の悩み相談 熊本地震

Q 被災した親族が身を寄せています。優しくしようと思いますが、生活習慣の違いにイライラしてしまいます。

A 被災されたご親族もあなたも、突然の環境変化に心身ともにお疲れのことでしょう。大人数で生活をすれば、細かなところで異論は出るものです。

他人行儀かもしれませんが、大まかなルールや役割分担、金銭的負担や物品の共有について、皆さんで話し合ってみてはいかがでしょうか。情報や認識を共有することで、後々のトラブルが避けられます。

また、「家事・育児は女の仕事」「女のくせに気が利かない」という古い価値観によって追い込まれることもありますので、気を付けてください。

あなたも被災者であり、こういう時だからこそ、他の人に干渉されない時間や場所をつくり、自分のペースを取り戻すことも大切です。くまもと県民交流館女性総合相談室 ☎096(355)2223 (火曜と日曜を除く 9時～16時)

※熊本地震に関連して寄せられた相談をもとに、くまもと県民交流館女性総合相談室が執筆します。  
＝水曜掲載

### 他の女性相談窓口

◆県女性相談センターDV相談 ☎096(381)7110 ◆性暴力被害者のためのサポートセンターゆあさいどくまもと ☎096(386)5555 ◆熊本市DV相談専用電話 ☎096(344)3322 ◆熊本市男女共同参画センターはあもにい総合相談室 ☎096(343)8306

# 男女共同参画inパレア ロビー展・ワークショップ

せんだい男女共同参画財団企画の応援パネル等を展示・啓発を図る。熊本地震関連のワークショップも開催



# 被災地訪問相談事業

8月26日～、益城町など6市町村の避難所・仮設住宅等での相談事業を実施



# DV防止講演会

11月15日、八幡悦子さん（NPO法人ハーティ仙台代表理事）をお迎えして、DV防止講演会を開催



# 応急仮設住宅の建設状況 (H28.11.4 整備完了)

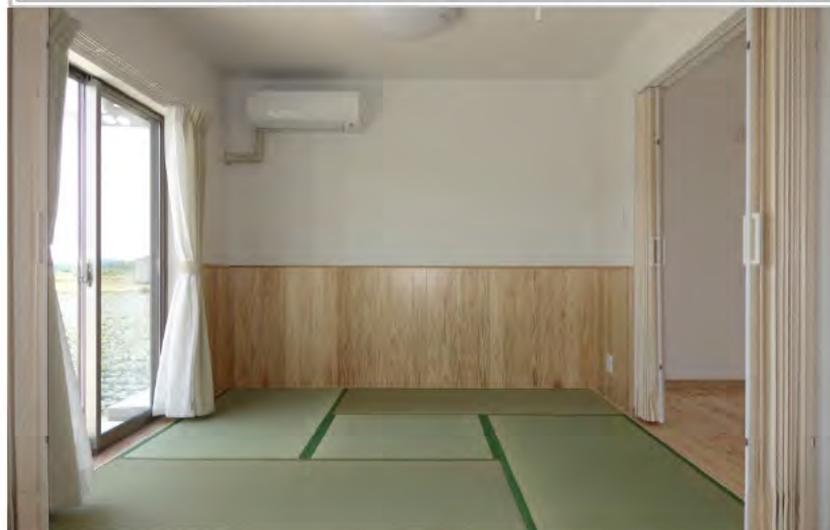
市町村	整備戸数等	
	団地数	戸数
熊本市	9	541
宇土市	6	143
宇城市	6	176
美里町	3	41
大津町	6	91
菊陽町	1	20
阿蘇市	4	101
産山村	2	9
南阿蘇村	8	401
西原村	5	312
御船町	21	425
嘉島町	11	208
益城町	18	1,562
甲佐町	6	228
山都町	1	6
氷川町	3	39
<b>合計</b>	<b><u>110</u></b>	<b><u>4,303</u></b>

# 仮設住宅の内観・外観

西原村小森第1仮設団地(外観)



西原村小森第1仮設団地(内観)



宇城市当尾仮設団地[みんなの家60㎡](外観)



宇城市当尾仮設団地[みんなの家60㎡](内観)



# ○ 住戸の配置計画

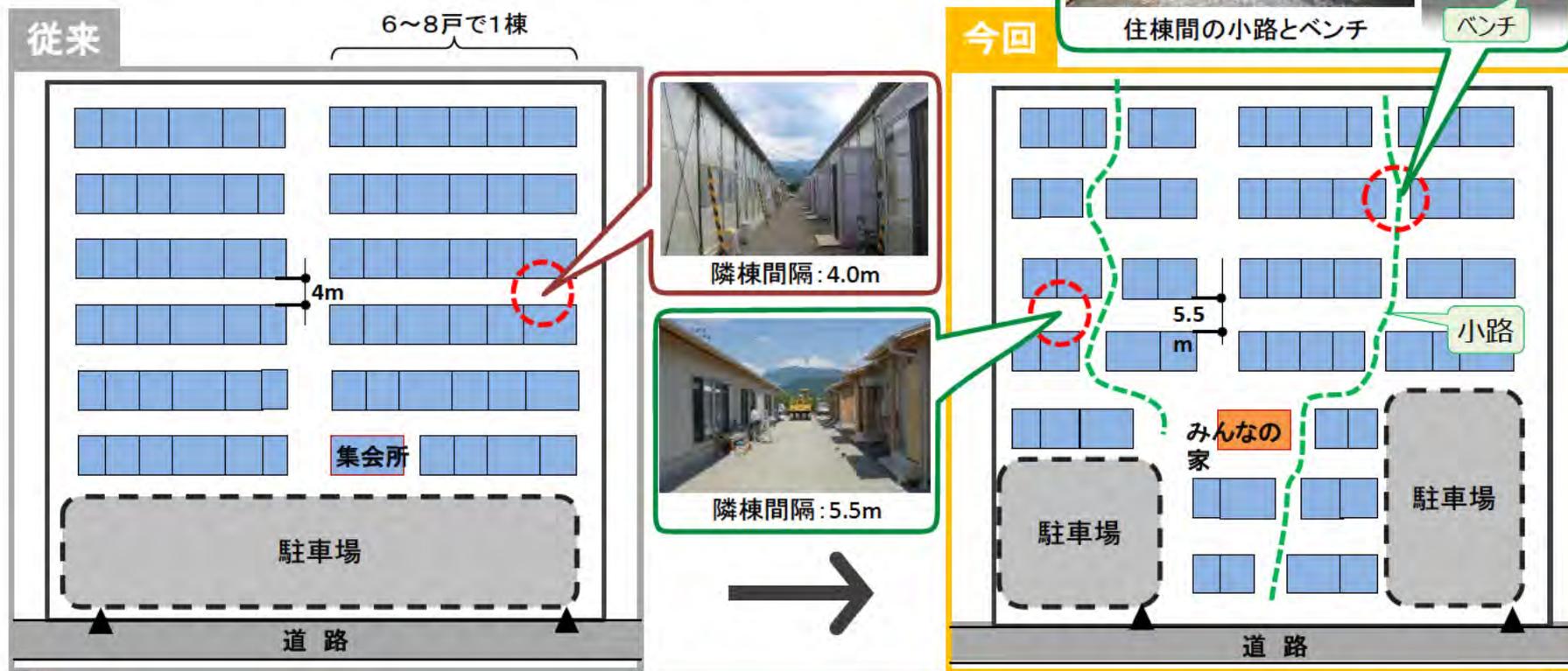
これまでの過密な住戸配置を見直し、住環境の向上とコミュニティの形成に配慮した「あたたかさ」と「ゆとり」、そして「ふれあい」のある仮設住宅団地としています

## 1) 従来よりもゆったりとした配置計画

・敷地面積 100㎡/戸 ⇒ 150㎡/戸 ・隣棟間隔 4m ⇒ 5.5m、6.5m

## 2) みんなの家(集会所) や駐車場の配置に配慮

## 3) 住棟間に小路(コミュニティ動線) の配置、木製ベンチの設置



# 益城町テクノ仮設団地（全体）



# 被災地訪問相談事業

■ 期日：平成28年8月26日（金）～

■ 対象市町村：益城町、西原村、南阿蘇村、御船町、宇城市、嘉島町

■ 訪問先・訪問者

〔訪問先〕 避難所、仮設住宅（集会所等）、その他公共施設

〔訪問者〕 女性総合相談員（2人）、男女共同参画センター職員（1人）

■ 形態・実績（12月10日現在）

〔個別面談〕 相談件数 45件

〔おしゃべり会〕 参加者 92人



※11月10日以降、内閣府「熊本地震による配偶者からの暴力等の相談機能緊急強化等事業」の支援

## 被災地訪問相談事業(寄せられた声)

- 認知症の義母がいるので目を離せず、外出もままならない。義母とのやりとりで疲れたときはおしゃべりで発散しているが、仮設団地には親しい人が少ないので、近所の姉妹のところに行っている。
- 仮設団地で生活音が響いてイライラすることや、住宅近くに車を止められて迂回しなければならないことなど、自治会があれば相談できるのだが。
- 夫と仮設住宅で二人暮らし。夫は仕事一筋で近所づきあいができない。酒癖が悪く、物を投げたりすることもある。私が我慢するしかないと思い過ごしてきた。
- 男の一人暮らし。大病をしたので今は休職中。仮設住宅で昼間家いると、「遊んでいる」と見られるのがつらい。
- 地震でお互いの消息がわからなかった友人と、仮設団地で偶然再会。まだ他に知り合いがいるかもしれないが、個人情報関係で誰が入所しているのかわからない。

## 被災地訪問相談事業(寄せられた声)

- イベントがあると、住民同士が顔を合わせる機会になる。
- 仮設団地は色々な地区から寄り集まっているので知らない人も多い。  
横のつながりをつくりたいと思い談話室でサロンを始め、まずはプランターの花植えをみんなでやった。
- 震災前は地区でサロンを月1回やっていたが、地震で途絶えている。  
おしゃべり会のようなやり方を参考に、また始めたい。
- 仮設団地でサロンや健康教室など集まる機会があり助かっている。  
ヨガ教室で教えてもらったことを試したらよく眠れるようになった。
- 地震後、(被災程度の違いなどに気を遣い)互いの家を行き来することができなくなっていた。おしゃべりできる場所があるとありがたい。
- おしゃべり会での情報交換はメリットが大きい。話すことでストレスを解消し、ためになる情報を逃さないなど。